



歴史と伝統のあるウェルビーイングの学校に！

校長 戸高 正弘

先日の27日（月）に、開校150周年記念冊子や記念品に掲載する写真撮影を行いました。航空写真の撮影には、開校150周年記念事業実行委員会の皆様のお力添えをいただき、校庭に3つのキャラクターデザインを表現するために、色とりどりのエプロンを身に付け、校庭に並んでセスナ機が来るのを待ちました。しばらくするとセスナ機が現れ、上空を4周程度旋回しながら撮影をしていただきました。最後には児童の歓声に応え、機体を左右に振ってくれ、帰って行きました。2回ほど延期になり、この日も天候が心配でしたが、撮影をすることができて良かったです。その後、全校や各学級での撮影も無事に行うことができました。着々と準備が進んでいます。



るようになったのだと思います。とても素晴らしいことで今から大変楽しみです。



渋沢 栄一から学ぶウェルビーイング！

いよいよ7月3日には、新札が発行されます。埼玉の三偉人であり、一万円の肖像画になる渋沢 栄一は、子供のころから母親に「いいかい栄一、あんただけがうれしいんじゃない、みんながうれしいのが一番」と言われて育ったそうです。そしてその母の教えが考え方のベースとなり、500を超える企業の創設に携わり、社会公共事業や福祉・教育機関の支援に取り組み、社会格差をなくすために公共事業にも力を入れました。こういった取組が今もなお引き継がれ、今の時代のSDGsやウェルビーイングの考えをいち早く取り入れた素晴らしい功績であると感じます。

彼は、「一人一人に天の使命があり、その天命を楽しんで生きることが処世上の第一要件である。」と述べています。人それぞれが、その使命を全うするために与えられた場所で輝き、成長していく。そういう人の集まりこそ理想とする社会であると教えてくれているのではないかと考えます。



片山小学校においても、児童や教職員はもちろんのこと、保護者、地域の皆様が開校150周年記念事業を成功させようとそれぞれの立場で頑張ってくださいっている姿と重なり、本当に感動しました。

今後も歴史と伝統のあるウェルビーイングの片山小学校に、と一人強く決意をしました。



開校150周年記念事業実行委員会の中で、児童がぜひとも今年の夏祭りに私たちも自主的に参加したいと提案。「子どもが楽しく遊ぶ場所を作らせていただけないか」と参加していただいている町内会長さんに、具体的な案を紹介しながらお願いをさせていただきました。



子どもたちの考えを実現するためにたくさん相談にのってください、前向きに検討をしてくださることになりました。大人の方々が一生懸命に夏祭りに取り組まれている姿を見て、自分たちもできることをやりたいと考え